

## 第8回羽島市新庁舎建設委員会 資料

### 新庁舎オフィスについて

新庁舎の什器整備については、新庁舎建設基本方針に掲げた「効率的・機能的な庁舎」を目指し、働きやすい執務環境が構成されるものとする。また、計画概要3の適正な執務室の考え方に適合し、かつ、地球環境に配慮した計画、および誰もが使いやすく人にやさしいユニバーサルデザインを考慮した什器の整備計画を行う。基本的な考え方を以下の6つに示す。

#### ① 組織の変化に柔軟かつスピーディーに対応する

執務スペーススタンダードで設定したユニバーサルレイアウトに、各職員ごとにワゴン1台を設定する。組織変更時に職員は、デスクを動かさずにワゴンを持って容易に移動できる。デスクスタイルは、人員の増減に最も適応する大型天板型とする。大型天板型デスクは、最も省スペースがはかれる。作業面を在籍者数に応じて可変させるため、オープンになり、コミュニケーションやコラボレーションがしやすくなる。

#### ② ランニングコストを削減する

①のユニバーサルレイアウトを導入することでデスクを固定化できるため、電源・電話などのインフラも固定化する。これにより、毎回のレイアウト変更時に発生していた工事費等を削減できる。また、組織変更時のレイアウト変更が発生しないため、デスクや収納などを移動するなどの手間がなくなり、職員の負担軽減になる。

#### ③ スペース効率を高める

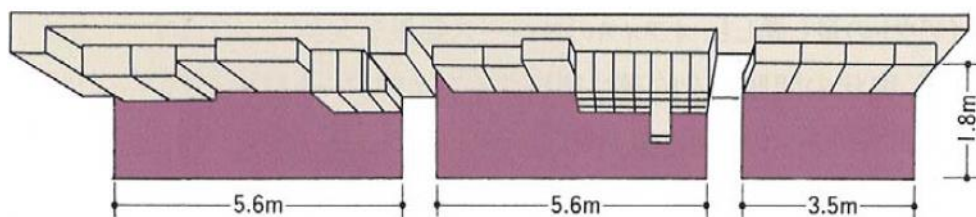
さまざまな不揃いの収納什器によるスペースの無駄と雑然とした環境を、モジュールという基準寸法に基づく什器とする。収容物の中身に関わらず一定の寸法体系で整備されることでスペース効率の向上をはかる。これにより良好な執務環境が保たれ、明快な動線の確保にも繋がる。また、文書に合った収納形態にもなるので、現在再構築中のファイリングシステムとの相乗効果で、効率よい文書管理にも繋がり、結果、スペース効率の向上に繋がる。デスクについても①で提案する大型天板型は、最も省スペースがはかれ、ファシリティコスト削減に有利である。

写真1) ユニバーサルレイアウトと大型天板デスク

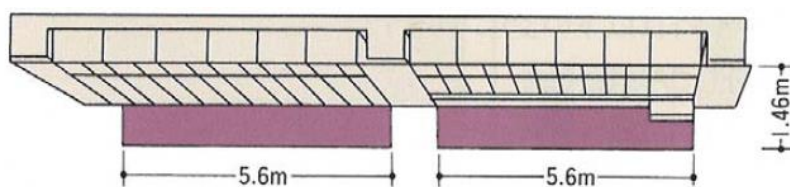


写真2) モジュール収納什器

\* モジュール化前



\* モジュール化後



#### ④ 情報化に対応する。

これからの情報化、電子化に相応しい什器とする。特にデスクについては、大容量の横配線が可能で、机上での投げ込み配線がしやすいものとする。この点からもデスクは、大型天板型が最適である。執務用椅子については、ITワークの増大による身体への影響を十分に配慮し、長時間かつ、あらゆる姿勢の変化に対応できるように、人間工学的な配慮が施されたものとする。

#### ⑤ 環境に配慮する

地球環境問題への対応を考慮し、新規什器・備品については、原則としてグリーン購入法(※)に適合する製品を対象とする。また、現行の什器・備品についても循環型社会の形成に配慮して使用可否基準を作成し、リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）を検討し、できるだけ廃棄物を出さないようにする。

#### ⑥ その他

- ・ 執務用椅子については、安全性からキャスター付4本脚を対象外とする
- ・ セキュリティについても考慮し、収納什器の扉や引出し等は鍵付きとする
- ・ 耐震対策に考慮する

#### ※ グリーン購入法

国等による環境物品等の調達に関する法律。国等の公的機関が率先して、環境に与える負荷の少ない製品やサービスを調達することによって、従来の大量消費型社会から、持続的発展が可能な循環型社会への転換を図ることを目標とした法律。地方公共団体や事業者、国民の責務などについても定めている。

〈参考写真〉

写真3) ブース式窓口カウンター



写真4) 窓口カウンター



写真5) 総合案内



写真6) 情報コーナー



写真7) 吹き抜け空間

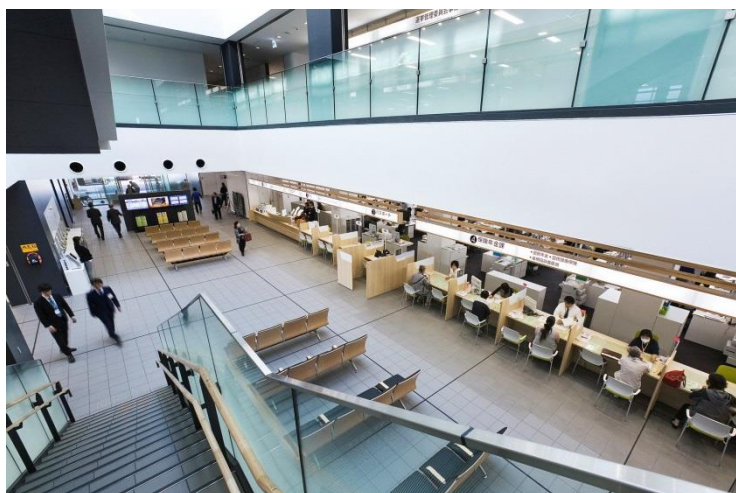


写真8) 事務所スペース

